



①大山祇神社総門 ②坊っちゃん列車 ③野間馬 ④萬翠荘

## 歴史・文化・グルメ 魅力いっぱい「愛のくに」愛媛県

公益社団法人 愛媛県不動産鑑定士協会 阿部一大

### 1. はじめに

愛媛県と聞いて皆さん何をイメージしますか。こんな質問を投げかければ、多くの方が「ミカンにポンジュース??……以上。」とお答えになるのではないのでしょうか。いえいえ、愛媛県の実力はそんなものではありません。自然と文化と歴史が調和する、そんな愛媛県の魅力についてご紹介させていただきます。

### 2. 愛媛県の概要

愛媛県は四国の北西部にあって、北は瀬戸内海、西は豊後水道に面し、陸では東部は香川県と徳島県に接し、南部は高知県と接してい

ます。東西155.99 km、南北157.16km、面積は5,676.10km<sup>2</sup>で、平成27年7月1日現在の人口は1,386,545人、世帯数は601,754世帯です。県内は山岳地帯が約8割を占め、平野部の極端に少ない地勢であり、四国の中央部を東西に貫く四国山地には自然公園が多く分布し、西日本最高峰である石鎚山（標高1,982m）を頂点に標高の高い山々がみられます。海岸線が非常に長いのも特徴で、その延長距離は約1,695kmにおよび、北海道、長崎、鹿児島、沖縄に続き全国第5位の長さです。県全域を通じて海と山の大自然に囲まれていながら、大きな自然災害も少なく、年間を通して温暖な気候に恵まれています。



石鎚山

### 3. 愛媛県の歴史

古代から伊予の国として栄えた愛媛県。日本最古の歴史書である古事記に「伊予国は愛比売（えひめ）と謂ひ」と記されていることが現在の県名の由来であると言われています。中世に入り戦乱の世に入ると、瀬戸内海を拠点にした武装集団の水軍（海賊衆）が強大な勢力を築き、後に日本最大規模の水軍として日本史にその名をとどろかせました。現在でも瀬戸内海沿岸部を中心に多くの遺構群が残されており、往時の様子を偲ぶことができます。近代になると、正岡子規を始めとした多くの文化人が産声を上げ、俳句・短歌などの日本の近代文学に新風を吹き込みました。また、愛媛県は弘法大師空海ゆかりの四国八十八ヶ所のうち26寺（40番～65番札所）もあるなど、日本史を彩る歴史を豊富に持ち合わせています。

### 4. 分割された県域が育んだそれぞれの文化

伊予の国・愛媛県は、その地形的特徴から東予・中予・南予に区分されます。東予地方は、県東端部から続く海岸線沿いに平野が連続する地域、中予地方は、広大な道後平野にある県都松山市を中心とした市街地が広がる地域、南予地方は、平地は少なく大部分が山地で、海岸沿いまで切り立った山がせり出すリアス式海岸が特徴の地域です。これら各地域には、文化はもちろん、気候や地形、方言などにそれぞれ違いがみられ、産業構造も、第一次産業の南予、第二次産業の東予、第三次産業の中予と概ね区分できます。また、県民気質もそれぞれ特色があり、気質の違いを表現したたとえ話で、もし手元に100万円があったら東予人はそれを元手に商売を始め、2倍3倍に増やそうとし、中予人は貯蓄して利子で余暇を楽しみ、温泉三昧の生活を夢見る、南予人は一晩で使い切るような大散財（主に酒代）をする、などと評されます。



## 5. 実は全国2位？

愛媛県を語るうえで避けて通れないのがミカンの話。おいしいミカンを作る環境に恵まれており、冒頭でも述べた通り、愛媛のパブリック・イメージとしてはミカンの一大生産地であることが大きいと思います。しかし、当県自慢のミカンの生産量は年々減少しており、2004年には30年以上続いた生産量全国トップの座を和歌山県に奪われてしまい、以降、現在に至るまで全国2位の座に甘んじています。しかし、ミカンから転換された品種等を含めた柑橘全体の生産量は全国1位の生産量を誇り、未だに柑橘王国として君臨し続けています。その他にも、キウイフルーツ、裸麦、真珠、養殖マダイ等の生産量は全国1位となっています。(平成24、25年：農林水産省統計より)



ミカン

## 6. 一大工業地帯東予地方

愛媛県のなかでも東予地方は、全国有数の工業集積地帯となっています。東予地方は東から、四国中央市、新居浜市、西条市、今治市などで構成されていますが、これらの市域に所在する工業地帯には、それぞれ次のような特色が



今治タオル

見られます。【四国中央市】古くから紙すき・製紙が盛んな地域であり、大手製紙メーカー・大王製紙を始め、数多くの紙加工業者が集積。【新居浜市】国内最大級の別子銅山（現在は閉山）を発祥とする住友系の工場が数多く建ち並ぶ。【西条市】石鎚山の伏流水がもたらす豊富な地下水を有し、西日本最大規模の臨海工業団地に鉄鋼、エレクトロニクスなど、多様な工場が集積。【今治市】国内最大手の造船企業である今治造船があり、全域で造船に関連した工場等が立地する。また、今治市は、全国シェア5割以上を占める国内最大のタオル産地でもあり、近年、「今治タオル」のブランド化にも成功し、全国的な知名度も高まっています。

## 7. サイクリストの聖地 「瀬戸内しまなみ海道」

1999年に全線開通した「瀬戸内しまなみ海道」は、西瀬戸自動車道の愛称で、本州・広島県尾道市と四国・愛媛県今治市を全長約60kmで結ぶ架橋ルートです。このしまなみ海道は、徒歩や自転車でも渡ることができるのを最大の特徴とし、近年、「サイクリストの聖地」としてサイクリングイベントが開催されるなど、国内外からの注目を集めています。美しい海や多くの島々を眺めながら空を飛ぶように疾走する



瀬戸内しまなみ海道

気持ち良さは筆舌に尽くしがたいものがあります。なお、しまなみ海道では、沿線の自治体でレンタサイクルを運営しており、ふらっと立ち寄った際に気軽にサイクリングを楽しむことも可能です。愛媛にお立ち寄りの際には是非この爽快感を味わってみたいのではないでしょうか。

## 8. 史実に記された天下の古湯、道後温泉

松山市内中心部から坊ちゃん列車に揺られて十数分、都心部からほど近い抜群の立地条件を有するのが、日本三古湯の1つであり、三千年

の歴史をもつとされている道後温泉です。その昔、足を痛めた白鷺が道後のお湯で傷を癒して、飛び立つのを見て発見されたという説や、急病になった少彦名命（スクナヒコナノミコト）がこのお湯に入って病が治ったという神話も残されています。また、道後温泉は夏目漱石の小説「坊っちゃん」の舞台にもなったことで一躍有名になりましたが、聖徳太子を始め、舒明天皇や斉明天皇など、多くの天皇が御行幸の際に伊予の湯で体を休めたと文献に記されており、古来より名湯として知られています。また、フランス・ミシュラン社が発行した「ミシュラングリーンガイドジャポン」では最高位の三ツ星の評価を得ており、海外からも高く評価されています。



道後温泉本館



道後温泉本館神の湯





宇和島城

## 9. 西国の伊達

伊達家といえば、仙台市の東北の伊達家を連想される方がほとんどでしょうが、愛媛県の南西部に位置する宇和島は「西国の伊達」といわれ、伊達家と深い繋がりを持っています。慶長20年(1615年)に十万石を拝領して藩祖となった独眼竜伊達政宗の長男、秀宗が板島丸串城(宇和島城)に入城したことから正式に宇和島藩として成立し、これが宇和島伊達家の始まりとなりました。2015年は宇和島伊達家が誕生してから400年の節目の年であり、宇和島市内各所で様々なイベントが催されています。

## 10. 愛媛県の食

青く透明な愛媛の海は、様々な命を育み、「瀬戸内海の魚=美味しい魚」として定着しています。愛媛県の郷土料理として有名なのが、鯛を

使った「鯛めし」ですが、この鯛めしは地域によって作り方が全く異なります。中予・東予地方で鯛めしと言えば、鯛の炊き込みご飯ですが、他方、南予地方はお茶碗に盛った白米の上に鯛の刺身を乗せて独特のタレをかけて食べるスタイルとなっています。このほか、じゃこ天、さつま汁、せんざんきなどの郷土料理があり、焼豚玉子飯、三津浜焼き、八幡浜ちゃんぽんなどのB級グルメも高い人気を得ています。

## 11. 愛媛県の地価動向

2015年1月1日時点の地価公示によると、愛媛県内における標準地の設定数は238地点、継続地点の平均変動率は、住宅地▲2.2%（前年▲2.4%）、商業地▲2.3%（同▲2.8%）、全用途▲2.2%（同2.6%）で依然として地価下落が継続しているものの、いずれも下落幅はやや縮小傾向にあります。



南予の鯛めし



中・東予の鯛めし



せんざんき



じゃこ天



さつま汁



焼豚玉子飯

住宅地で地価が上昇したのは、住宅地の最高価格地点(187,000円/㎡)である「松山-1」(松山市持田町4丁目)の1地点のみで、優良住宅地域で根強い有効需要があることなどから0.5%の上昇となりました。このほかは6地点で横ばいとなりました。

商業地で地価が上昇したのは、商業地の最高価格地点(730,000円/㎡)である「松山5-1」の1地点のみで、中心部の複合商業施設等の進展で更なる商業集積への期待が高まっていることなどから1.0%の上昇となりました。このほかは2地点で横ばいとなりました。

今後も一定の有効需要が認められる一部のエリアでは、地価が横ばい・上昇に転じる可能性を有するものの、大半の地域では下落が続き、価格動向の二極化傾向が進んでいます。特に、

第一次産業を中心とする南予地方では地場産業の不振、若年層の流出・高齢化を背景に実需の先細り傾向が中長期的に続くものと予測されます。

## 12. おわりに

紙面の関係上紹介しきれませんでした。愛媛県の魅力はまだまだ沢山ございます。皆様是非とも愛媛県に足をお運びいただき、愛媛県の美味しい食べ物や自然、文化を心ゆくまでごゆっくりご堪能ください。

※ 出所・参考資料：愛媛県観光物産協会 HP、宇和島市観光協会 HP、今治地方観光協会 HP、愛媛県 HP、宇和島伊達400年祭 HP





①はりまや橋 ②高知城 ③長宗我部元親像 ④竜串海岸

# 高知県はひとつの大家族やき ～海あり、山あり、清流ありの高知県

一般社団法人 高知県不動産鑑定士協会 清水 卓・門田 勝利・中村 健

## 1. 高知県の概要

### ①地形と面積

高知県は四国地方の南部に位置し、北は、四国山地により徳島・愛媛の両県に接し、南は太平洋に面した扇状になっています。南側の海岸線の延長は700kmを超え、東方の海岸は概ね隆起海岸、西側は山と絶壁が海岸に迫るリアス式海岸。また、四国山地から太平洋に流れ下る河川は、最後の清流として有名な四万十川のほか、仁淀川、物部川などが規模の大きいものとして挙げられます。

県土の総面積は、7103.91㎡（国土地理院：平成26年全国都道府県市区町村別面積調）で、

都道府県別面積順位では18番目となっています。森林面積の割合は、全体の約83%と全国で最も大きく、可住地面積の割合は16%程度です（総務省統計局：2015年2月公表「統計で見る市町村のすがた」）。これは東京都と比べると、総面積は3倍を超えますが、可住地の面積は下回るということになります。

### ②人口

高知県の人口は約73.2万人（高知県総務部統計課：2015年8月分高知県推計人口調査）で、平成22年の国勢調査以降、毎年約6,000～7,000人程度の減少傾向が続いています。また、県内総人口の約46%が高知市に集中しており、高知市の人口密度が突出して高いという



⑤龍馬像



⑥桂浜



⑦足摺岬



⑧室戸岬

人口分布になっています。

### ③気象

平成26年の年間日照時間は約2,100時間、年平均気温は17.0度（気象庁：気象観測統計）。日照時間は日本でも上位を誇る長さで、気候は温暖。一方で、夏から秋にかけて台風の直撃を受ける常襲地帯で、統計によると年間降水量が約3,000mmを超える年も多いです。晴れるときにはよく晴れ、降るときは激しく降るといった特徴があります。

### ④景勝地

2015年は高知県をふるさととする偉人「坂本龍馬」の生誕180周年。その龍馬像がある「桂浜」のほか、四国最南端の岬「足摺岬」、2011年に世界ジオパークに認定された「室戸岬」、日本三大鍾乳洞の一つ「龍河洞」など、自然見物が多くあります。官民一体で取り組んでいる



⑨龍河洞

観光キャンペーンの効果により、県外観光客の入込数は増加傾向にあります。（高知県観光振興部観光政策課：2014年6月発表分 県外観光客入込・動態調査）

（中村 健）



## 2. 『高知の旨いもの』

じゃらん宿泊旅行調査にて「おいしい食べ物が多い県」として2年連続1位に輝いた高知県(2014年、2015年)。温暖な気候と豊かな自然に恵まれた高知には、海・山・川の幸が溢れています。

### ①海の幸

『高知の旨いもの』と聞いて、まず頭に浮かぶのは“カツオのタタキ”ではないでしょうか。真紅に輝く本場高知のカツオのタタキは、今までカツオが食べられなかった方でも虜になるほどの美味しさ。炙りたてを塩のみで食す塩タタキは、新鮮だからこそできる高知ならではの楽しみ方です。高知のカツオの一世帯当たりの年間消費量は全国でも断トツの1位。カツオを愛する高知県民が厳しい目を光らせているからこそ、おいしいカツオだけが集まってくるのです。ほかにも鮮度抜群の“清水さば”や“メジカ”、“ドロメ”は、高知ならではの海の幸です。



⑩わらやき叩き

### ②山の幸

ゆず、ショウガ、ナス、シシトウ、ニラなど、『全国出荷量1位の農産物』もたくさん。なかでも“ゆず”は、柚子ポン酢やジュースなどに加工されるほか、柚子酢は高知の田舎寿司作りには欠かせない調味料となっています。



⑪ゆず



⑫土佐ジロー

また、前述のとおり、森林率約83%の高知県。大規模な畜産には向いていないからこそ、こだわりの生産者がじっくりと希少価値の高い地肉を育てています。高知生まれのブランド地鶏“土佐ジロー”や、幻の和牛と呼ばれる“土佐あかうし”はその代表選手です。

### ③川の幸

四万十川や仁淀川など、清流に恵まれた高知では、鮎を中心に、ウナギやツガニ、スジアオノリやテナガエビなど、香り高い川の幸にも恵まれています。



鮎塩焼き/自己撮影



⑬アオノリ

### ④郷土料理

『高知の郷土料理』と言えば“皿鉢料理”。刺身や寿司、揚げ物、煮物、果物など、山海の旬の味覚が大皿に盛り込まれます。皿鉢を大勢で囲み、食べたいものを自分の小皿に取って食べるのが高知流。人が集まるテーブルに皿鉢は欠かせません。



皿鉢料理/自己撮影

2014年から「高知県民がおススメするお店に行きたい!」という観光客の声に応えるかたちで始まったのが「高知家の食卓 県民総選挙」。観光客に自信を持っておすすめする飲食店を県民が投票し選抜しています。食に対するこだわりが強い高知県民、その結果が「おいしい食べ物が多い県」1位に結びついているのです。

(中村 健)

参考資料：高知県観光パンフレット「こうちじん」高知県 HP  
高知県観光情報サイト「よさこいネット」HP  
写真(⑤~⑬)提供：(公財)高知県観光コンベンション協会

## 3. イベント紹介

### ~四万十路の「四万十川ウルトラマラソン」~

四万十川ウルトラマラソンのコースの魅力は、川に溶け込む沈下橋を渡り、四万十川の景色を間近に感じ、そして何よりも多くのボランティアスタッフ、地元の人達からの声援です。つまり、最初の閉ざされた20km程の峠を越えると、目の前に四万十川のパノラマが広がり、そこから川沿いに下り、川に最も近づく沈下橋2カ所を渡ります。その間、四万十川を渡る風とともに、多くのボランティアや沿道の住民の声援等が最後のランナーが走り終えるまで背中を後押しします。

四万十川ウルトラマラソンのキャッチフレーズに「走る人にありがとう」「支える人にもありがとう」があります。当地域の人々は、「走る人」になる人もいますが、その多くは「支える人」として、全国から集まり地域に織込まれたランナーに声援を送り、サポートしています。

四万十川の自然と清流を感じ、地域の人々の温かさを感じるこの出来る高知県幡多地域を代表する行事です。

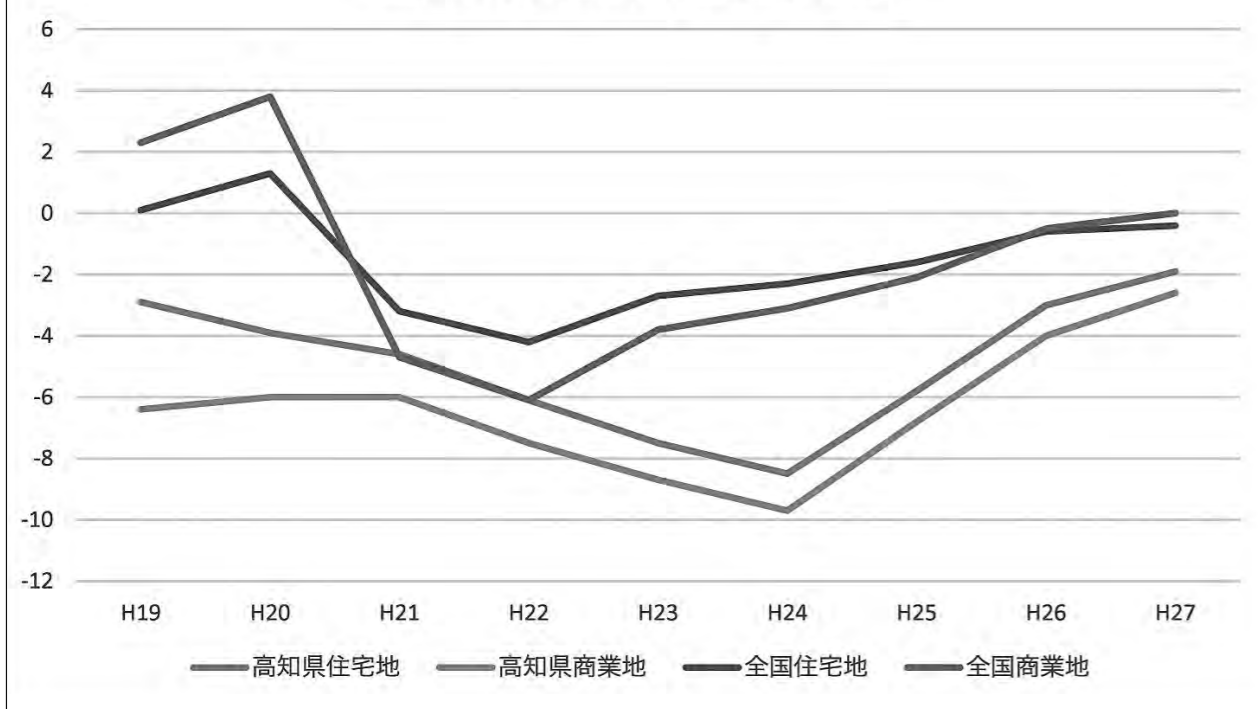
(門田 勝利)



ウルトラマラソン/自己撮影



地価公示対前年平均変動率 (%)



#### 4. 高知県の地価動向

平成27年地価公示における高知県内の住宅地の対前年平均変動率は▲1.9%（平成14年以来14年連続で下落）、商業地の平均変動率▲2.6%（平成4年以来24年連続で下落）、となっており、平成26年地価公示の住宅地平均変動率▲3.0%、商業地平均変動率▲4.0%に比べ、下落幅は縮小しているものの、地価は全般的に下落傾向で推移しています。

高知県内の地価は、平成22年地価調査から平成24年地価公示において、対前年比の地価下落率が、住宅地、商業地ともに全国一の下落率を示していました。金融資本市場の危機を契機とする世界的な景気後退の影響に加え、東日本大震災の発生により、従前より有していた自然災害に対する警戒感がより高まりを示し、沿岸部を中心に不動産需要が縮小したことが主な要因でした。自然災害に対する警戒感は依然強

く、災害の危険性が高い地域での丘陵地に対する需要は堅調であり、地価も横這い傾向で推移しています。

高知市等の一部の都市部においては、直近ではアベノミクス効果により、一部、企業や富裕層が需要する不動産については需要の回復が認められますが、多くの市町村においては、人口減少、少子高齢化の進行による地域経済の低迷等により、不動産需要が減退しています。

商業地については、高知市中心部に帯屋町、はりまや橋商店街などのアーケード街が存し、中心商業地域を形成しています。他県の地方都市と同様に郊外型店舗が立地する幹線道路沿道の路線商業地域への顧客の流出が認められますが、直近では、アーケード街を含む中心商業地域において民間の開発事業や公共による歴史館、図書館の建築工事が進捗しており、地価は底値を探る状況にあります。

(清水 卓)

#### 5. トピックス

##### ①高知県の地震対策

##### (1)繰り返す南海地震

南海地震は、土佐湾沖で、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込み、この2つのプレートの境界付近でたまっただひずみが元に戻ろうとはね上がるために発生します。この南海地震は、高知県全体を大きく揺らすと共に、プレートの変動が海底で起こるため、海面が変動することにより津波も同時に発生します。

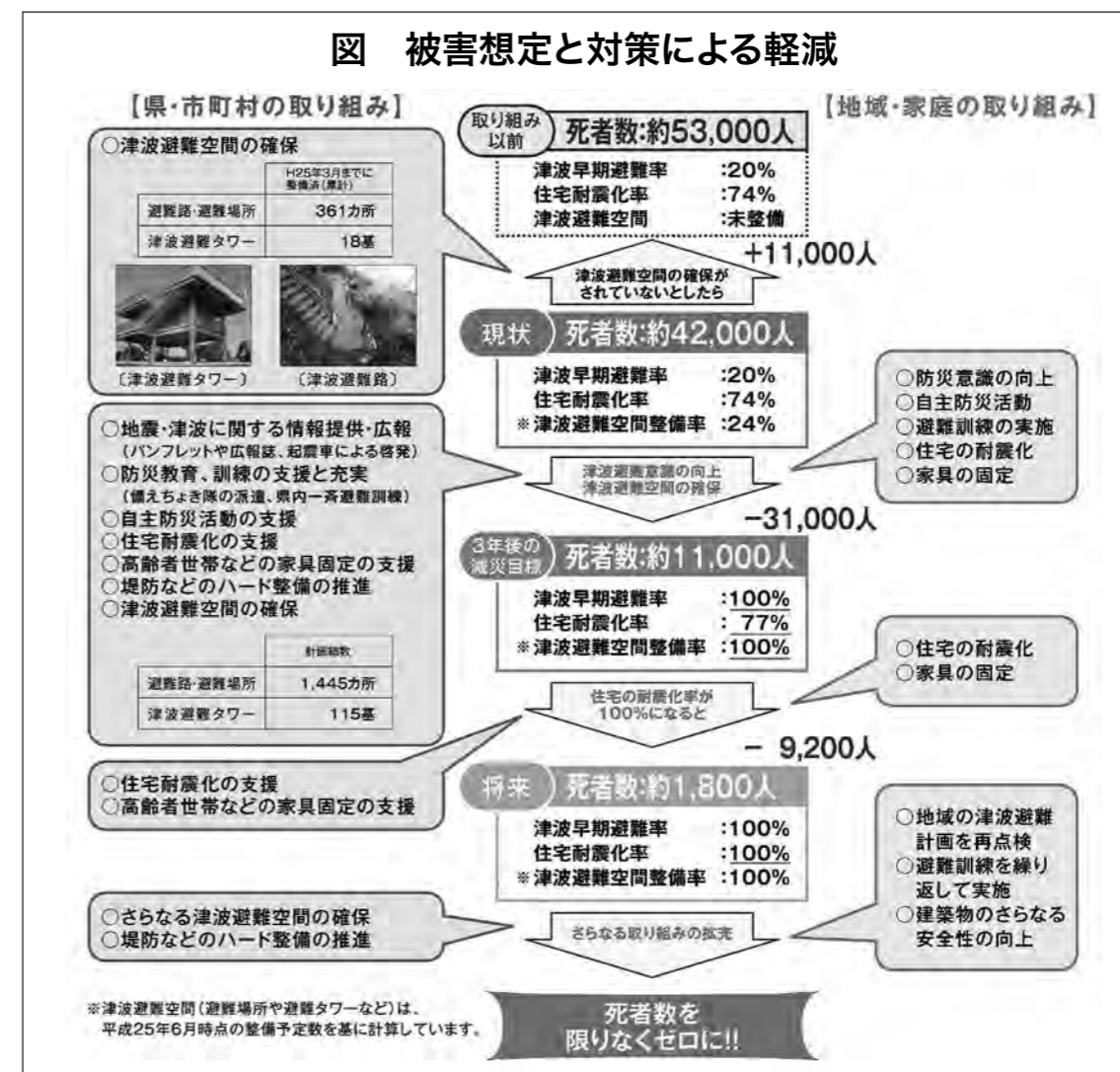
この南海地震等はこれまでおおむね100年から150年ごとに発生しています。昭和の南海地震からすでに70年近く経過し、安政東海地震

からは約160年経過しています。その発生確率は30年以内に60%～70%程度であるとの見解（地震調査研究推進本部 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版））も見受けられ、その切迫感は高まっています。

##### (2)高知県の想定南海地震

高知県では、平成25年5月、最大クラスの南海地震による被害想定を公表しています。これによると、現状では約15.3万棟の建物が全壊・滅失し、死亡者は42,000人になると想定されています。しかし、今後、津波避難対策が進み、住宅を含む建築物の耐震化率が100%となれば、死亡者を1,800人にまで減らすことができるとされています。

図 被害想定と対策による軽減





(3)高知県の対応

<その1>高知県南海トラフ地震対策行動計画  
(平成25年度から平成27年度)

行動計画では、建物の倒壊、津波、ライフラ

インの停止など、地震発生後に起こる被害シナリオを詳細に想定し、必要な対策を計画しています。

図 地震対策行動計画

**〔発生直後〕 命を守る**

**強い揺れが発生**  
強い揺れに伴う建物の倒壊、家具や家電の転倒落下により人的被害が発生します。  
⇒このため、県では、住宅や学校、医療施設、社会福祉施設などの耐震化や、家具の転倒防止など室内の安全対策を進めます。

**津波が襲来**  
強い揺れの後に大津波が沿岸部に襲来します。  
⇒このため、県では、津波による被害を軽減するために、地域ごとの避難計画の作成や、避難路、避難場所の整備を支援するとともに、避難時間を稼ぐため防波堤や堤防の整備を行います。

**火災が発生**  
強い揺れに伴う建物倒壊や津波による燃料の流出などで火災が発生します。  
⇒このため、県では、迅速に消火活動ができるように消防体制の充実や自主防災組織の訓練、燃料タンクや高圧ガス施設等の転倒・流出による二次被害を防止する対策を進めます。

**土砂災害が発生**  
山間部や急傾斜地の斜面崩壊などにより孤立する地域が発生します。  
⇒このため、県では、急傾斜地崩壊対策や地すべり対策、ダムやため池などの耐震化、また、孤立するおそれのある集落の通信手段の確保や緊急用ヘリコプター離着陸場の整備を進めます。

**〔応急期〕 命をつなぐ**

**救助救出、救護活動が本格化**  
建物倒壊や津波により多数の要救助者が発生します。  
⇒このため、県では、応急活動体制の充実強化や総合防災拠点の整備を進めます。

**避難生活の始まり**  
日常生活とは異なる厳しい環境での生活を余儀なくされます。  
⇒このため、県では、避難所の運営や被災者の支援を円滑に行うための体制づくりを推進します。また、食料や飲料水の備蓄を促進します。

**〔復旧・復興期〕 生活再建に向けて**

**復旧が本格化**  
震災から一日も早く立ち直るための生活環境の整備が必要になります。  
⇒このため、県では、被災者の住居の速やかな確保や生活支援のための準備を行います。

**〔全体を通じて〕 自助、共助をサポート**

**人材の育成と訓練の実施**  
正しい知識を身に付け、事前の備えに取り組むことで被害の最小化を目指します。  
⇒このため、県では、県民への啓発や防災訓練を実施し、自主防災組織の活性化や防災人材の育成に努めます。



住宅耐震改修のようす

<その2>高知県住宅耐震化促進事業

国の基本方針において、耐震改修促進法に基づき、住宅や多数の者が利用する建築物の耐震化率を、平成15年の75%から平成27年までに少なくとも90%とする目標を定めています。さらに、政府の「新成長戦略」及び「住生活基本計画」においては、住宅の耐震化率を平成32年までに95%とする新たな目標を定めています。

高知県における住宅の耐震化率は、平成25年10月時点で約75%（平成25年住宅・土地統計調査より推計）にとどまっております。住宅の耐震化が緊急の課題となっています。

高知県では、市町村と連携して「高知県住宅耐震化促進事業」を実施しています。高知県住宅耐震化促進事業は、「高知県住宅耐震化促進事業費補助金交付要綱」、「高知県木造住宅耐震診断士登録制度要綱」、「高知県木造住宅耐震化促進事業者登録制度要綱」の3つの要綱でできています。（図 住宅耐震化への補助制度）

<その3>高知県木造住宅耐震化促進事業

南海トラフ地震に備え、既存木造住宅の耐震

診断、耐震改修の促進を図り、地震に対して多数の者の安全及び市街地の安全性の確保を図ることを目的としたもので、具体的には下記の3事業が挙げられます。

(i) 木造住宅耐震診断事業～市町村が、県に登録した「高知県木造住宅耐震診断士」を派遣して既存木造住宅の耐震診断を実施する事業

(ii) 木造住宅耐震改修設計費補助事業～耐震診断の結果、倒壊の危険性があると判断された住宅を対象として、耐震改修工事の設計書作成（工事費見積書を含む。）を行う所有者等に対して市町村が補助する場合に、その費用の一部を補助する事業

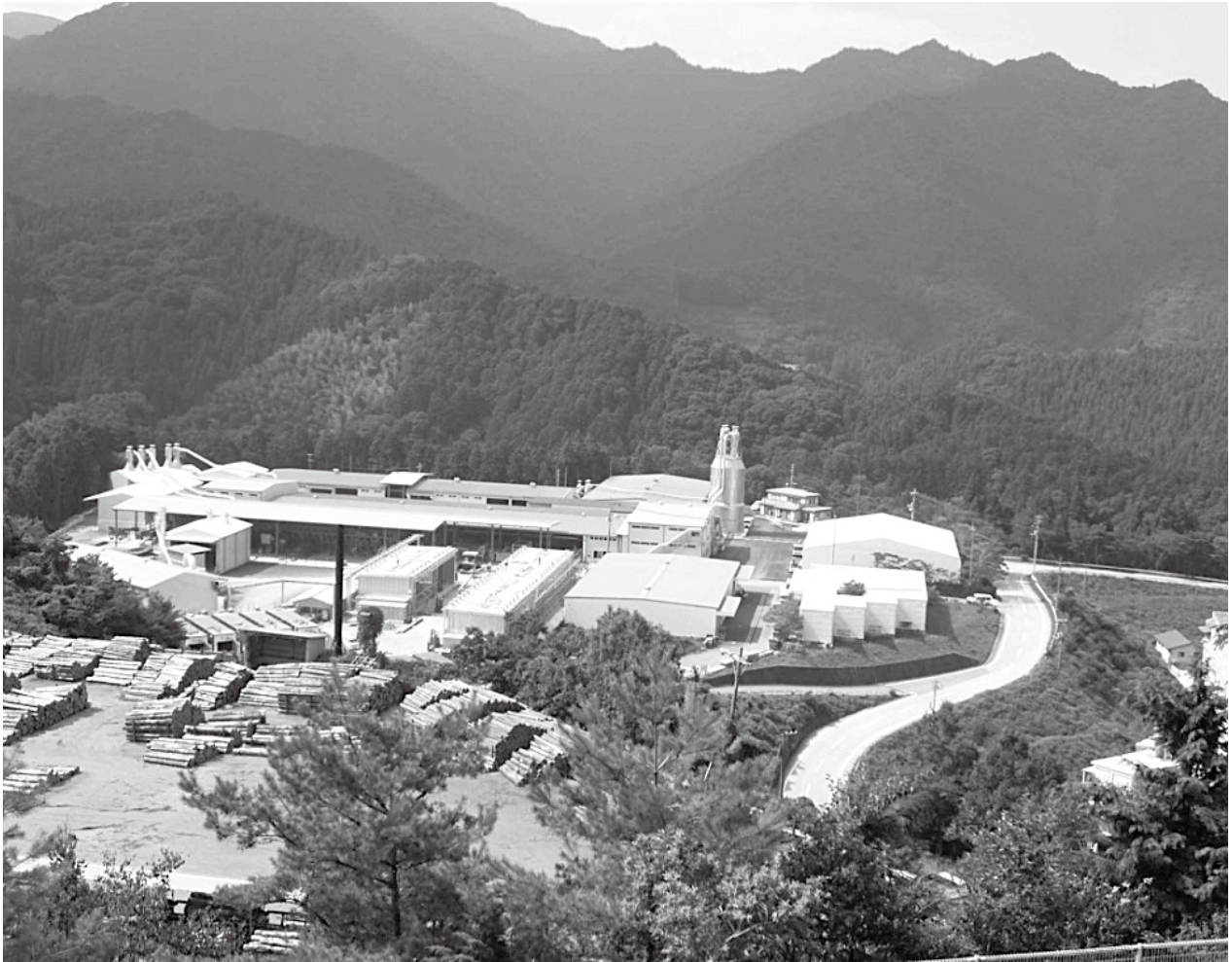
(iii) 木造住宅耐震改修費補助事業～耐震診断の結果、倒壊の危険性があると判断された住宅を補強工事によって地震に対して安全な構造となる場合に、住宅の所有者等に市町村が補助

住宅耐震化への補助制度

住宅の耐震化への補助制度			
● 高知県住宅耐震化促進事業の概要（木造住宅、非木造住宅ともに昭和56年5月31日以前に建てられたものが対象）			
	耐震診断	改修設計	耐震改修
木造住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診断費用 自己負担 3千円 (診断費用3万3千円のうち3万円を補助)</li> <li>● 診断方法 市町村から派遣された耐震診断士が、現地調査を行い診断します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助金額 耐震改修設計にかかった費用の2/3の額(上限20万円)</li> <li>● 要件 1 耐震診断の評点が1.0未満 2 耐震改修後の評点が1.0以上となる計画 3 高知県に登録した設計事務所が受託するもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助金額 耐震改修工事及びブロック塀の安全対策にかかった費用の一部 60万円+30万円<sup>※2</sup>を上限</li> </ul>
非木造住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助金額 上限 3万円 1 構造設計一級建築士等が実施するもの 2 建築物の耐震改修の促進に関する法律に基づき定められた方法で、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価を行うもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助金額 耐震改修設計にかかった費用の2/3の額(上限20万円) 構造設計一級建築士等<sup>※1</sup>が実施するもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助金額 耐震改修工事及びブロック塀の安全対策にかかった費用の一部 60万円+30万円<sup>※2</sup>を上限</li> </ul>

※1 構造設計一級建築士等①構造設計一級建築士 ②耐震改修支援センター（一財）日本建築防災協会の「耐震診断、耐震改修を実施する建築士事務所」一覧に掲載されている建築士事務所所属する建築士  
 ※2 耐震改修費補助(90万円)に独自の上乗せ補助を実施している市町村もあります。補助要件など詳しくはお住まいの市町村役場にお問い合わせください。





平成 25 年 9 月より本格生産が始まった「高知おとよ製材」

する費用の一部を補助する事業

#### (4)現在の状況

高知県においては、木造住宅耐震診断事業等により平成27年7月末現在、13,486棟の耐震診断が実施され、このうち3,832棟について耐震改修工事が終了しています。

まだまだ、十分な建物の耐震化には至っていないのが現状であるが、官民が一体となって、全速力で建物の耐震化を進めています。

(門田 勝利)

参考資料：「高知県南海トラフ地震対策行動計画平成 25 年度～平成 27 年度」国土交通省の平成 23 年度政策レビュー、地震調査研究推進本部 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）、高知県 HP、国土交通省 HP

#### ②高知県の林業

高知県は、全国一の森林率であり、県内には林業を基幹産業とする市町村が存在します。収益性の低下、林業従事者の減少等、林業を取り巻く環境は厳しい中、平成25年9月に、四国最大級の生産能力を有する新工場「高知おとよ製材」が本格稼働しました。高知県は、同工場を官民共同で取り組む中心プロジェクトの一つと捉え、県内の製材業者が連携し付加価値を高めた製品を安定的に供給することにより、関東など大消費地への販路拡大が計画されています。それに伴い、県内では原木需要が高まりを示し、搬出に優位性を持つ林地が選好されている状況にあります。

(清水 卓)